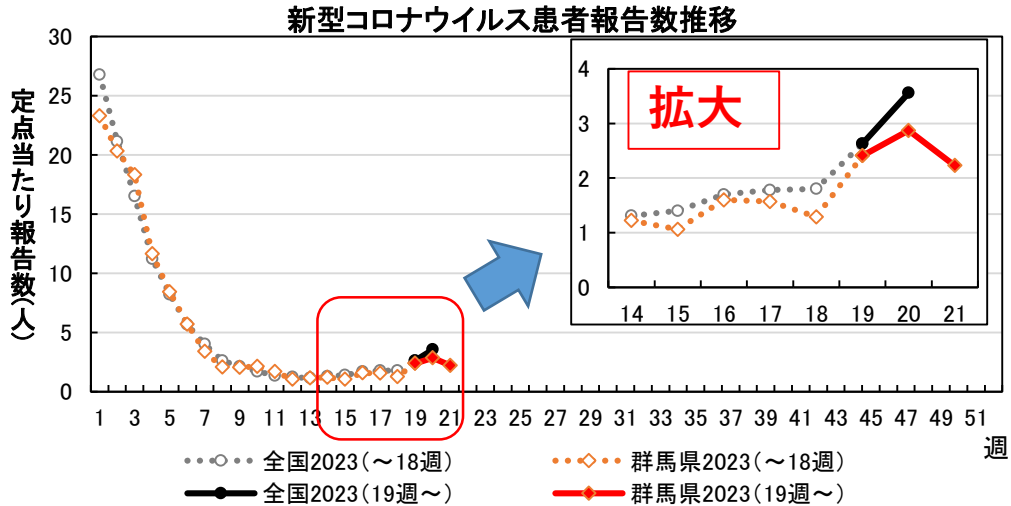


新型コロナウイルス感染症 (定点報告疾患)

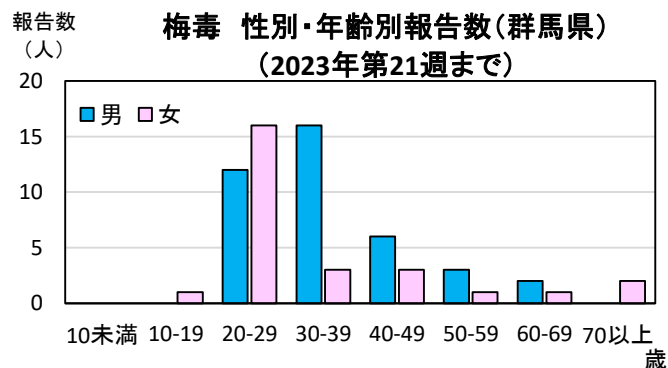
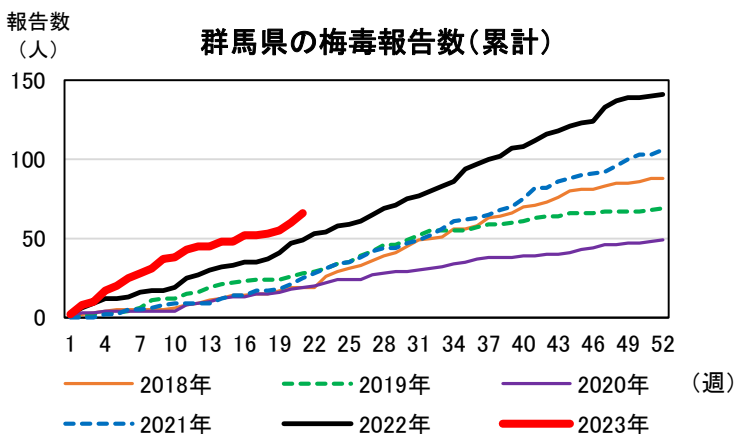
- ◆ 2023年第21週の定点からの報告数は194人 (定点当たり2.23人) でした。
【第20週：250人 (定点あたり2.87人)】
- ◆ 年齢群別では10歳代が40人 (20.6%) と最も多く、次いで10歳未満が36人 (18.5%)、20歳代が29人 (14.9%) でした。



※2023年第1週から第18週までは厚生労働省が発表した定点医療機関合計報告数と定点当たり報告数 (令和4年10月3日～令和5年5月7日の週次データ) から作図

梅毒 (全数報告疾患)

- ◆ 全国的に2011年頃から報告数が増加傾向となり、2019年から一旦減少したものの、2021年以降大きく増加しています。
- ◆ 群馬県の2023年第21週までの報告数は66件で、過去最多となった2022年の同時期 (第21週：49件) を上回るペースとなっています。
- ◆ 報告の多い年齢群は、男性が20歳代から30歳代、女性が20歳代でした。



●新型コロナウイルス SARS-CoV-2 ゲノム解析について(Vol.33)

新型コロナウイルスゲノム解析結果(2023年第21週(5月22日～28日)まで)

県内では、オミクロン株が2021年第50週(12月13日～19日)に初めて検出され、2022年第1週(1月3日～9日)以降、BA.1が主な流行となりました。

2022年第2週(1月10日～16日)に渡航歴のある患者からBA.2も検出されましたが、その後の拡大はみられていませんでした。第9週(2月28日～3月6日)以降、BA.2の検出が増加し、主な流行となりました。第25週(6月20日～26日)以降、新たにBA.5が主流となりました。

2023年第15週(4月10日～16日)以降は、XBBが目立って検出されるようになり、主流となっていると考えられます。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となりましたが、引き続き医療機関での検体収集の協力により、ゲノム解析による流行株の把握が重要と思われれます。

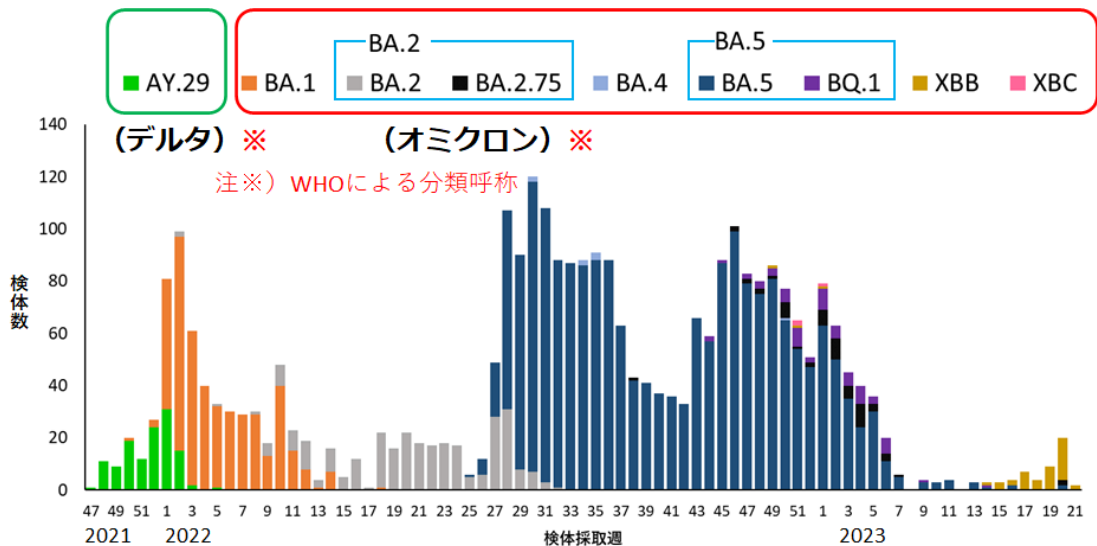


図1 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(検体数)【群馬県衛生環境研究所実施分】

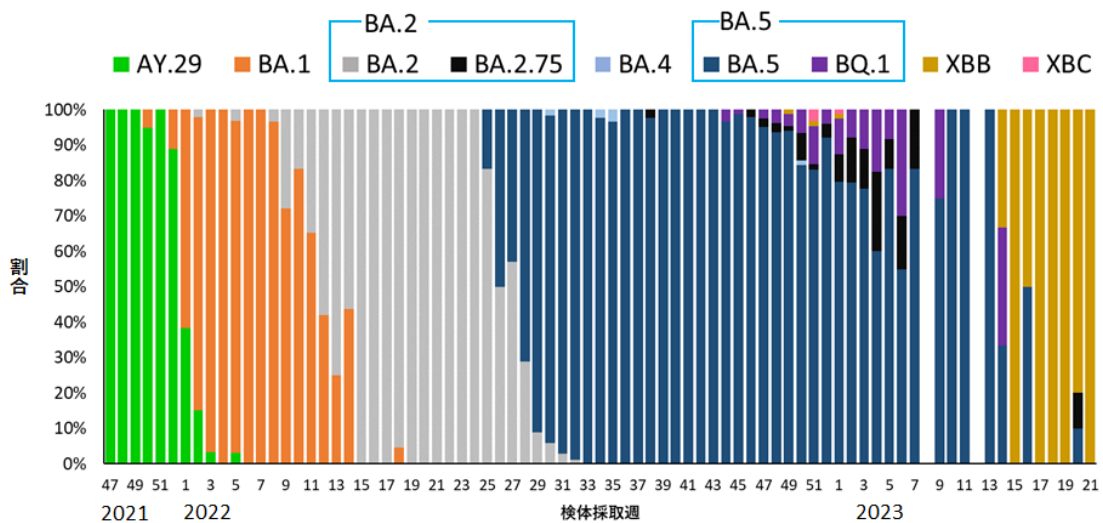


図2 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(割合%)【群馬県衛生環境研究所実施分】